

日本の水郷・水都



日本人が造った
水とふれあう情緒的空間

豊リバーフロント整備センター発行

本書は、宝くじの普及宣伝事業として助成を受け作成されたものです。



富山市役所



富山のまちは、かつて度重なる洪水に苦しめられ、その解決法として、富山城の北側を湾曲して流れる神通川にバイパスを造り、その跡地を現在の松川だけ残し埋め立て、川の上にまちを築いた。それが、富山が、「水の都」といわれる所以である。これはその昔、神通川は現在の富山市内中心部を流れていたが、たびたび洪水が起こったため、まっすぐ富山湾に注ぐよう河川のバイパスがつくられたものである。そしてかつての河道は廃川地となり、一部残された右岸側約二十mが現在の松川となっているのである。

「松川」という名前は、当時の中州や川辺りにたくさんあった松にちなんで、縁起が良いとしてつけられたものであるといふ。

神通川のなごり川「松川」

松川は、今の富山市の中心を流れる大河・神通川のかつての川筋を今に伝える、いわば「なごりの川」である。

戦国時代は、富山城主・佐々成政が、当時ここを流れていた神通川を天然のお堀として富山城の守りに充てていた。その後、前田家が治めるようになり、文政（一八一八—一八三〇）から安政年間（一八五四—一八六〇）にかけては、北前船が富山城あたりまで上ってきていたという。神通川を往来する船上から見ると、お城が水に浮いているように見えたので、富山城は「浮き城」と呼ばれていた。

富山城は、一五三二年（天文元年）に豪族水越勝重が建てた城で、度重なる焼失や明治維新での取り壊し

などでほとんどの建物を失った後、一九五六年（昭和三十一年）に城址公園として整備されている。

現在は、緑豊かな公園には天守閣が再建され、夜はライトアップされた姿が美しい。富山城址公園と松川は、一帯的に整備され、松川べりは桜の名所でもあり、春には多くの花見客で賑わう川とまちの歴史を思い起こさせる空間となっている。

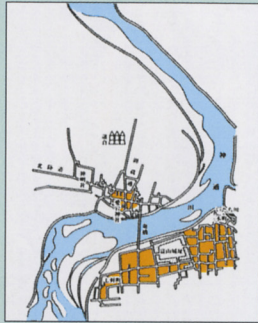


春の富山城

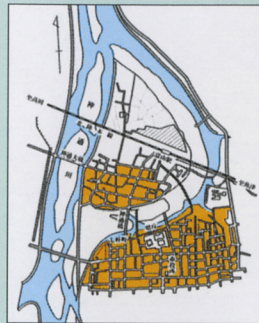
ライトアップに映える城郭



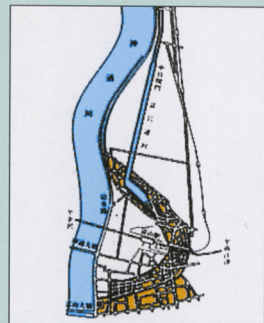
神通川の変遷



明治初年の神通川と橋北



大正初年の神通川と橋北



現在の神通川と旧川埋立地

遷り行く神通川へ「馳越線工事」

明治期までの神通川は、富山市中心部で大きく蛇行して流れており、洪水時にはこの箇所がよくあふれていた。このため、オランダ人技師ヨハネス・デーレーケの提案を受け、明治三十四年（一九〇一年）～三十六年（一九〇三年）この蛇行している区間の西側にまつすぐな水路を建設し、川の流れを直線化する「馳越線工事」が行われた。いまの富山大橋から富山赤十字病院あたりの区間である。この工事は、川の中央に幅二m、深さ一・五mの細い水路を掘り、自然の力を利用して洪水のたびに少しずつ水路の幅を広げていくものだった。現在のように、完全に流れを移し替えたのは大正十年（一九二二年）頃である。

神通川の馳越線工事の結果、元の神通川はわずかに松川を残すのみで、広大な廃川地が富山駅と市街地の間に横た

わり、都市の発展に大きな障害となっていた。このため、東石瀬港から富山駅北まで約5kmの運河を造り、運河を掘ったときの土砂で神通川の廃川地を埋め立て、新市街地を作る計画が作成された。

この運河は、富山市と当時の東岩瀬町の両市町をつなぐことにより「富岩運河」と名付けられ、富山県ではじめての都市計画事業として、昭和五年（一九三〇年）から建設を行い、昭和十年（一九三五年）に完成している。かつての神通川の跡地は、現在、富山県庁、富山市役所、NHKなどが建ち並び富山市の都心となっており、現在の松川・いたち川が、旧の川筋の一部として残っている。また、富岩運河の建設により東石瀬港と富山駅北が水路でつながり、舟による資材の運搬が非常に便利となり、運河沿岸は一大工業地帯を形成することになった。



桜、水面輝く春の松川



常夜燈

松川の保存と活用へ

昭和五十年代、松川では、違法駐車、汚濁、夜間の治安等、現代の都市が抱える諸問題が発生し、松川を全て埋め立てる計画が浮上した。

しかし、その後、松川の保存・活用が議論されるようになる。このような背景のもと、市中心部に富山らしさを復活させたいとの声があり、「北前舟が行き交ったかつての神通川のにぎわいをもう一度」と、昭和六十三年から遊覧船運行が始まった。往復約二・四km、松川の七橋を約三十五分でめぐるコースは、年間約一万人が利用するという。堀割構造であることや沿川の桜並木により、乗客からは、街路沿いの車や騒音が気にならず、静かでゆつたりとした時間を過ごすことができる。今では、五十一人乗船可能な大型船も航行されている。

また、舟運の再現により、観光資源と

もなった松川の両

岸には、桜並木が

立ち並び、夜にボ

ンボリが灯る遊歩

道には、地元富山

県の彫刻家の作品

二十八点が設置さ

れ、「松川べり彫刻公園」として整備され

ている。その他、親水テラスなどの水辺

の休憩施設は、市民や観光客の憩いの場

ともなっている。

松川遠景



現在、改修と浄化が進んだ松川には、悠々と錦鯉が泳ぐ姿も見られ、川面に映る春の桜、夏の新緑、秋の紅葉、そして冬の雪景色を堪能できる、色合い豊かな水辺となっている。



松川べり彫刻公園

リバーフェスタ

松川沿いの空間を活用して毎年行われるリバーフェスタでは、松川辺りをへりバー劇場として、琴、マンドリン、アコーディオン、吹奏楽などの様々な楽器やコーラスによるライブのほか、松川の散策ツアー、松川に関する絵画の屋外展示、さらには市の下水道局による、社会見学等、毎年、松川を活用した、さまざまなイベントが企画され、多くの市民で賑わいを見せる。



琴の演奏を楽しむ観客



春の松川をゆく

富山桜まつり

松川辺りは、二・五kmにわたって五百本の桜が咲き乱れるさくらの名所であり、日本さくら名所百選にも選ばれ、桜の見頃の時期には、「富山桜まつり」や「全国チンドンコンクール」が開催され、十万人以上が訪れる。また、開花にあわせ、夕方からはライトアップもされ、水面に映し出される幻想的な風景は、桜の名所の魅力を二層、際立たせている。

リバーフェスタ



チンドンコンクール



松川 まつかわ



松川を美しくする会活動風景①

松川一帯では県、市、民間事業者が協力し、松川の清掃活動を実施するなど、地域協働の取り組みが始まっている。特に、地元企業は社会奉仕活動の一環として協力している。

また、近年、市民団体の「松川を美しくする会」が設立されており、松川の水位一定化、水質改善の一体的な水辺づくりの活動を目指している。これは、松川の水位を一定に制御することで富山の治水技術の高さをアピールしたい。水質を改善し、森の小川のような清らかな水が流れていて欲しい。丸石の護岸をもっと風情が感じられる景観に変えたい。さらには、水辺のショッピングセンターの

地元企業も参加する地域の取組み

建設や県内有数の祭りのショーを開催するイベント、等々を総じて行うもので、実現化へ向けて市民みずから、松川を核とするまちの地域活性化へのアイデアが次々と生まれ始めている。



松川を美しくする会活動風景②